

SUBARUとアイシン、 次世代電動車両用 eAxle に関する協業を開始

株式会社SUBARU(東京都渋谷区 代表取締役社長:大崎 篤 以下、SUBARU)と株式会社アイシン(愛知県刈谷市 取締役社長:吉田 守孝 以下、アイシン)は、両社の車両並びに変速機開発に関する知見・ノウハウを持ち寄り、SUBARUが2020年代後半から生産開始するバッテリーEVに搭載するeAxle*1を共同開発・分担生産することに合意しました。

今回の共同開発は、高効率・軽量コンパクトをコンセプトに、お客様の使用環境を考慮した諸性能を実現すべく、開発を進めていきます。

また、車両の電動化の進展で事業環境が大きく変化する既存サプライチェーンの維持・発展を考慮し、両社で最適な部品調達先、生産スキームを検討していきます。

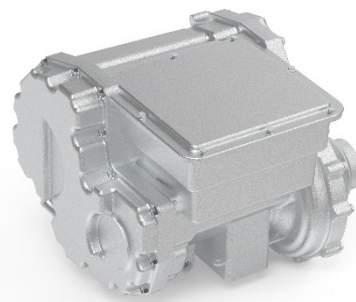
SUBARUは、カーボンニュートラル社会実現への貢献を目指して2050年に向けたロードマップを定め、電動化などの取り組みを加速させています。

アイシンは、「生産」と「製品」の両軸でカーボンニュートラル社会の実現を目指しており、最重点製品であるeAxleについては小型化・高効率化に向けた技術の開発に取り組んでいます。

両社は、今後も様々な領域で協業の可能性を追求し続け、両社ならではの高付加価値商品・技術を実現することで、電動化社会の更なる発展に寄与してまいります。



左:SUBARU 代表取締役社長 大崎 篤
右:アイシン 取締役社長 吉田 守孝



eAxle イメージ

*1:バッテリーEVなどモーターを主動力とするクルマが「走る」ために必要な主要部品を1つにまとめ、パッケージ化したもの。主にギア、モーター、インバーターといった部品から構成される。